



体外診断用医薬品

クラスⅢ免疫組織学検査用シリーズ
ヒストファイン SAB-PO(M) キット
ケラチン/サイトケラチン

第一抗体
抗ケラチン/サイトケラチンモノクローナル抗体(ヒストステイナー用)
(動物種：マウス)

包装： 60テスト(12mL) Code：722431

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

■本品は、クラスⅢ免疫組織学検査用シリーズ ヒストファイン SAB-PO(M)キットの構成試薬 第一抗体であり、自動染色装置ヒストステイナー用試薬である。

■本品を使用する際は、ヒストファイン SAB-PO(M)キット(ヒストステイナー用)の添付文書をよく読んで使用すること。

*■ヒストファイン SAB-PO(M)キット(ヒストステイナー用)の各構成試薬は、第一抗体(本品)を除き販売していないので、別売りの「ヒストファイン SAB-PO(M)キット(Code：424021 または Code：424022)」「ヒストファイン DAB 基質キット(ヒストステイナー用) (Code：725191)」と組み合わせて使用すること。

**■特異性および抗原分布：ヒト組織中のケラチン 5(分子量 58kDa)、6(56kDa)、8(52.5kDa)、17(46kDa)および19(40kDa)と特異的に反応する。ビメンチン、デスミン、グリア線維性酸性プロテインおよびニューロフィラメントなどの他のフィラメントとは反応しない。

■クローン名：MNF116

■抗体のサブクラス：IgG1 κ

■免疫原：MCF-7細胞を移植したヌードマウスの脾細胞の粗抽出物。

■製法：ハイブリドーマの培養上清より得ている。

1. 内容

第一抗体・・・抗ケラチン/サイトケラチンモノクローナル抗体(動物種：マウス)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に12mLを含む。

2. 使用目的

組織、細胞中のケラチン/サイトケラチンの染色。

**3. 切片の準備

前処理(抗原賦活化)として、ヒストファイン プロテアーゼ(ヒストステイナー用)(Code：715231)で処理することが必要である。

**■参考：ヒストファイン プロテアーゼ(ヒストステイナー用) (Code：715231)の代わりにヒストファイン トリプシン溶液(ヒストステイナー用) (Code：715101)で処理することで良好な染色が得られる場合がある。

4. 使用方法

パラフィン包埋切片の免疫組織化学および免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。

1) 他の試薬とともにヒストステイナーにセットし、染色を開始する。

2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

**5. 染色方法の設定

(1)プロテアーゼ 反応時間を5分間とする。

**■参考：トリプシンの場合、反応時間を10分間とする。

(2)第一抗体 反応時間を30分間とする。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	抗CKモノクローナル抗体
試薬略称(10文字)	CK-MM
バーコード	CK-MM
時間(分)	30

****6. 貯法および使用上の注意**

1. 2-8℃保存。
2. 使用期限はラベルに記載されているので使用前に確認すること。
3. 使用前に室温に戻すこと。
4. 使用後は速やかに冷蔵保存すること。
5. 異なるロットの試薬や他製品の試薬を混ぜたりしないこと。

****7. 取扱上(危険防止)の注意**

1. 使用期限の過ぎた試薬は使用しないこと。
2. 本製品に関する安全情報は安全データシートを参照すること。
3. 本品を吸い込んだり、眼、口、皮膚、衣類などへの接触を避けること。
4. 本製品の廃棄の際には、各施設や地域および国のルールに従い、適切に廃棄すること。
5. 本品は、動物由来成分を含むので、取扱に注意が必要である。
6. アジ化ナトリウムは有毒化学薬品である。本製品の含有量は危険なものとして分類されないが、蓄積されたアジ化ナトリウムは爆発性の金属アジ化物として形成され、水道管に含まれる銅、鉛と反応する可能性がある。そのようなリスクを避けるために大量の水とともに洗い流すこと。
7. ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

8. 主要文献

- (1) Moll, R. et al: Cell 31: 11, 1982
- (2) Sun, T. T. et al: J. Invest. Dermatol. 81: 1095, 1983
- (3) Gatter, K. C. et al: J. Clin Path. 35: 1253, 1982
- (4) Benz, E. W. :Biotechniques 3: 412, 1985
- (5) Gosh, et al: Br. J. Haematol. 61: 21, 1985
- (6) Norton, et al: Histopathol. 11: 487, 1987